

カトリック 仙台教区報

2013年9月1日

No.213

発行

カトリック仙台司教区

〒980-0014

仙台市青葉区本町 1-2-12

Tel(022)222-7371 Fax(022)222-7378

発行責任 広報委員会

URL <http://sendai.catholic.jp/>

第40回 カトリック宮城県大会

「信仰者としての確かな歩みを」

講演 「信仰年と新しい福音宣教」
～カリタスジャパンの取り組みと福音のあかし～

新潟教区長 菊地 功 司教

2013年7月7日(日) 仙台白百合学園 ロザリオのマリア聖堂会場に「信仰者としての確かな歩みを」のテーマで、第40回カトリック宮城県大会が開催された。(関連記事2・3頁)「信仰年」と東日本大震災復興への取り組みに関連して、カリタスジャパンの責任司教である菊地 功司教は、表題のテーマのもとに講演された。

2011年の3月以降、カリタスの名前を背負って各地で活動して下さった多くの方々に、カリタスの責任者として、心から感謝申し上げます。カリタスジャパンをはじめ、カリタスを名乗っている組織は、世界に165あります。

カリタスジャパンは、日本の司教協議会から認められて、50年ほど活動しています。国際カリタスの本部は、バチカンにあります。カリタスの基本姿勢

1995年8月

に私は視察団としてルワンダ難民キャンプのあるザイルのブカブを訪問しました。この難民キャンプのリーダーたちに、今何が必要かをたずねた時に、彼らの答えは、「私たちはもう世界から忘れ去られた。神父さん、日本に帰ったら、この難民キャンプに私たちがまだいるんだということを伝えて



アから遠く離れたスリランカやインドまで被害を及ぼしました。その翌年4月に私は、インドの東側海岸近くにある、コンビッチェリという町を訪問しました。そこ

の仮設住宅には何千人もの人々が暮らしていました。ここで一人のおばあさんが、私に一生懸命その状況を話してくださいました。災害直後には、世界中からたくさんの方々がやってきて支援して下

さった。しかし3ヶ月経ったらみんななくなっちゃった。そして「私たちはもう、世界中から忘れ去られたんだ」という言葉を、聞かされました。

この他にも、数えられないほど世界中の多くのところで、この言葉を聞きました。

被災地や、紛争地域、貧困や、社会のシステムの不正義、様々な状況の中で苦しんでいる多くの方々がカトリック教会のカリタスという組織を通じて支援を受けている。そのほとんどのところで「私たちは、もう忘れられたんだ」という言葉を聞きました。

もちろん、東日本大震災でもこのことは例外ではなかったと思います。

2011年9月、何力所かの被災地を回りました。そして、海岸沿いにある幼稚園の先生が、震災から半年後なのに、ボランティアの人たちもだんだん引き払い、「私たちは、だんだん忘れ去られていく」という言葉を発しました。

世界中で日々起こる、様々な出来事は、みんなが忘れ去ることによって解決していくのです。解決するというのは、苦しんでいる人々がいなくなるということではなくて、その人たちを取り残したまま、人々はもう口にしなくなる。それによって問題が解決してしまったのかのように錯覚してしまうのです。カリタスの組織は小さい組織、

生命の泉

7月23日から6日間、ワールドユースデーのために教皇がブラジルを訪問した。教皇はコパカバーナでの公式のミサに先立って仕事を求めて流入した貧困層の住むフラヴェーラを訪ねて住民と交流し「連帯が分かち合い」をアピールした。また、歓迎の群衆のなかを防弾ガラスに守られることなく警備も最小限だったそうだ。これらの行動は教会の新しい時代の到来を告げている。▼教皇は帰途に着く飛行機の中で、記者たちに性的マイノリティーに理解を示し、離婚した信徒の苦しみ寄り添うようにしなければならぬと語った。▼教会はこれまで受け継いだ信仰の遺産を十全に保ち世界を福音化することを使命としてきた。そのため信徒の抱える問題は司牧的な配慮という形で個別的に対応してきたが、これらの問題は必ずしも地域的な事情でも個人の自己中心的行為ということもできないことが分かってきた。▼教会はグローバル化が進み、世界のどこかで起きる問題や紛争は先進諸国の代理戦争となつて拡大する。石油の奪い合い、鳥インフルエンザやH1N1の感染、環境汚染、民族紛争と大量難民、過剰競争が招いた格差社会、企業間のグローバル化、家庭の崩壊、学校の中にも知的なカースト制が進んでいる。これらの難問に福音はどんな光を投げかけているのだろうか。▼私たちが伝統的な信仰を守っているうちにつまらない宗教がはびこり、胡散臭く思われるようになった。▼福音は現代が生み出す様々な問題に真剣に取り組まなければならぬことを要求する教だ。▼無縁社会と言われる状況の中で私たちは信仰を保ち、事業所を経営して福音を広める努力をしているが、召命の減少に伴って当然のように運営の責任を担って管理者になり福音を必要とする人々から遠くなつてしまった。み教えは生きて関わるといふ仕方ではか伝えられない。(守)



地区制ということ (3)

司教 平賀徹夫

来る9月23日(月＝秋分の日)に開かれる「仙台教区宣教司牧評議会」では、議案の一つが「教区の将来を考えての『地区割り化』に向けた各小教区での意見交換を深める」となっています。これまで各小教区で話し合われてきた意見や疑問点や提案など、数多く提出されることを期待しています。

「地区割り化」あるいは「地区制」の「地区」というのは、今までの教会(小教区)の枠を越えていくつかの教会を一つのグループとしたものです。これは分かって頂けるでしょう。仙台教区は53の小教区で成っていますが、それを10ぐらいのグループ(地区)に分けます。そして司祭は今までのように小教区にではなく、地区への複数での派遣となります。

この地区制への移行は、確かに、今まで慣れ親しんだ教会(小教区)のあり方とは変わらざるを得ないところが出てきます。それは司祭方にも信徒の皆さんにも言えることです。司祭方は地区への派遣ですから守備範囲がずいぶん広がりますし、たまたま居住することになる教会だけでなくその地区全体の教会を等しく担当することを心掛けなければなりません。信徒の皆さんには、例えば、今までその教会に司祭が常住していたが常住でなくなって司祭との連絡が難しくなるとか、教会の留守番はどうすればいいのかとか、主日のミサ時刻が変わると不便になるとか、今まで通りの時間で各種勉強会や集会ができなくなるとかも起こるでしょう。

実際のその時になればもっといろいろな、こまごましたあるいは重大な事からも起こりえます。そういうことで、地区内の教会全体および各小教区での、司祭・信徒・修道者全員での話し合いや連絡が大事になってきます。人任せにして我関せずというわけにはいきません。一人一役のような互いの協力が求められます。よろしくお願いします。

これを考えていて、創世記12章のアブラハムの話の思い出しました。「主はアブラムに言われた。あなたは生まれ故郷、父の家を離れて、わたしが示す地に行きなさい。わたしはあなたを大いなる国民にし、あなたを祝福し、あなたの名を高める、祝福の源となるように。」

ですが、教会の方々と共に働くことで大きな力を出すことができるのです。私たちが目指しているのは、それぞれの領分に応じて活動していくことです。そして、いつまでもたっても忘れ去ることはしない。被災された方々に、私たちが忘れ去ることはないということを、目に見える形で示していくことだと思っています。

カリタスはカトリック教会だからです。カトリック教会はずっとそこにあるからです。私たちの基本姿勢のもう一つは、マルコ10・48-52にある、バルティマイの話です。

「安心しなさい。立ちなさい。行きなさい」とバルティマイに声をかけます。ここで、人々は、彼の存在を認めます。「安心しなさい」「あなたはいてもいいんだよ」と存在を認めます。「立ちなさい」「彼に希望を与え、行きなさい」と行動を促し励まします。そこには何があつたのかと言え、イエスの「あの人を呼んできなさい」というイエスのことばです。人々が全く無視していたバルティマイに、イエスが、私が会いたいのはその人だということ、人々は、変えられていった。この



イエスの役割はアニメーター、命をあたえるアニメーターなのです。これが、私たちの目指す役割でありたい。つまり、私たちが、何かをやつて、成果をあげてほめたたえられるのではなく、誰かが成果を上げてほめたたえられるように、そこに導く、そういうお手伝いをする事ができればと思います。

私たちは、自立支援という言葉を使いますが、自立支援とは、ともすると与えられるものを与えて、あとは勝手にしろ、あとはお前の責任だ。これほど冷たい言葉はありません。

私たちは、被災者の自立を願っています。必要なものを与えて、あとは自己責任だといって突き離すことではなく、命を吹き込む、生き生きとした希望を持って生きることができるようになる。即ち、アニメーターとしての役割を果たして行く。それを世界各国のカリタスのメンバーは、世界各国で実践をしています。

全てのわざは、教会共同体として、行わなければならない。

ベネディクト16世教皇は回勅『神は愛』で、「隣人愛は、あらゆる次元における教会共同体の責務でもあります」と述べています。愛の業は、一人ひとりの個人的なわざではなく、教会共同体としての業であることを常に意識していかなければならない。教会の支援活動は、世界中の教会が一致して

いるという姿を見える形で示していくことです。

仙台教区の中においても、お互いに交流を深めてこれからの仙台教区としての教会の一致を深めていってほしいと思います。

信仰年について

ベネディクト16世は、信徒一人ひとりの信仰を深めるとともに教会共同体として、現代の社会の中で「新しい福音宣教」の可能性について考えるように促しています。信仰年の中で、「一人ひとりが言葉と行いによって証しするように招かれている」ということがとても大切なことです。そこで、次の3つの問いかけについて考えてください。

① 私たちは何を信じているのか？
② 私たちはなぜ信じているのか？
③ 私たちは、その信仰をどう生きようとしているのか？

教会の本質は次の3つの務めによってあらわされます。

① 神のことばを告げ知らせること (宣教と証し)

② 秘跡を行いつつ祝うこと (典礼)

③ 愛の奉仕を行うこと (奉仕)

今、日本の教会は、この東日本大震災の現実の中で、信仰を深めさせていただいているということに深く感じさせられています。

カトリック教会は、災害の前からあり、災害の時も、災害の後もずっとその社会の中に居続けるのです。そしてそこに福音をもたらしていくのです。

子どもたちの宮城県大会

今年は、県内の教会から27名の子どもたちが参加しました。その内5名の中高生がサブリーダーとして急きょお手伝いを引き受け進行や遊びの中で活躍してくれました。

ホセ神父によるお祈りで始まり、ゲームで仲間づくりをした後、大きな折り鶴制作をしました。「今、一番お祈りが必要な人は誰なのか？」という問いに、子どもたちがそれぞれ考えて、大きな折り紙に祈りを書きこみました。未だ苦しんでいる被災者へ、病気の人へ、ご飯の食べられない子どもたちへ……と様々な祈りとともに、字の書けない小さな子は絵を描いて神さ



(佐々木いづみ)

まへの捧げものとなりました。

鶴に仕上げ、ミサで子どもたちによって奉納しました写真。鶴を持って奉納する姿と祭壇に捧げら

れた様子が想像以上に美しく、子どもたちからの素敵なプレゼントに神さまもきっとお喜びになったことでしょう。

また、今回は初めてミサの聖歌を練習する時間を設けたところ、今までになく子どもたちのミサ中の歌声が元気で、皆様から褒めていただきました。子どもだからこ

そでできる明るく元気な賛美をこれから大事にしていきたいと感じています。暑い中、頑張った子どもたち、神父様、シスター方、リーダー、来年もまた会いましょう。

人権を考える委員会

ハンセン病問題に関して今、深刻な問題が起きています。それは国立ハンセン病療養所の職員が削減され、医療・看護・介護などの人手が足りなくなっている問題です。

そもそもハンセン病問題は、国がハンセン病患者を療養所に隔離し、病気が治った後も社会復帰を困難にしたものです。その人生被害を可能な限り回復するための「ハンセン病問題基本法」によつて、療養所で入所者(療養所で暮らす元患者)の皆さんが必要な医

療・看護・介護などを受けられる療養生活を国の責任で保障することになりました。しかも現在入所者の平均年齢は82歳を超え、高齢化、後遺症による障害などで介護の必要性は年々増えています。

しかし、国家公務員の定員削減計画によって、療養所の職員も削減が続く、入所者の療養生活に支障が出ています。そのため、入所者の代表である全国ハンセン病療養所入所者協議会は、抗議のハンガーストライキを覚悟するまでに至りました。

教区人権を考える委員会はこの問題を広く皆さんに知っていただき、国立ハンセン病療養所は一般の国家公務員の合理化の対象から除いて職員削減を行わず、法律どおり最後の一人まで医療・看護・介護などが保障されるよう、入所者の皆さんを支援してまいりますので、教区の皆様のご理解とご協力とお祈りを何とぞよろしくお願い申し上げます。

(委員 御供 真人)



国立松ヶ丘療養所

訃報

アウグスチノ平田 浩神父



7月13日 帰天 (90歳)

1923年1月21日 生

1950年4月9日 受洗

1960年3月20日 叙階

四ツ家教会

1960年米川教会助任

1961年元寺小路教会助任

1962年大籠教会主任

1966年五戸教会主任

同幼稚園園長

1974年亘理教会

小教区管理者

1975年東仙台教会主任

1984年白石教会主任

1987年西仙台教会主任

1994年県南地区担当

1995年水沢教会主任

1997年引退

(東京都清瀬市に居住)

8月8日(木)午後2時から

元寺小路教会にて平賀司教

主司式で追悼ミサが行われ

た。

スールマリア・テレジア

木梨 睦子

7月25日 帰天



(88歳)

1925年4月28日 生

1954年10月9日受洗

司教日程

9月・10月

9・1 ① 古川教会50周年

3 ② 人権を考える委員会

4 ③ 部落差別人権委事務局

7 ④ 桜の聖母幼落成式(福島)

8 ⑤ 岩手県連協

10 ⑥ 司教評議員会・教区司祭団・役

11 ⑦ 全ベース会議

12 ⑧ 子どもと女性の権利擁護

13 ⑨ 部落差別人権委・事務局会議

14 ⑩ カトリック福音の集い(いわき)

16 ⑪ 部落差別人権委・

21 ⑫ シンポジウム(東京)

22 ⑬ インターナショナルミサ

23 ⑭ 宣教師牧評・定例会

25 ⑮ 第8回福島会議(いわき)

27 ⑯ 第25回サポーター会議(石巻)

29 ⑰ 弘前教会堅信式

30 ⑱ 教区司祭団黙想会

10・1 ⑲ 教区司祭団黙想会

2 ⑳ 上堂教会50周年

4 ㉑ 特別臨時司教総会

8 ㉒ 司教評議員会・教区司祭団・役

9 ㉓ 部落差別人権委・定例会

14 ㉔ 札幌教区司教叙階式

16 ㉕ 難民移住移動者委

19 ㉖ 全国研修会

20 ㉗ 宣教師牧評・役員会

21 ㉘ NPO法人釜石

25 ㉙ 第26回サポーター会議(釜石)

26 ㉚ JCN A in 仙台

27 ㉛ 白河教会堅信式

28 ㉜ 30 東京教区管区司教研修大会

(いわき)

1958年4月8日 聖ウルスラ修道会 入会

1961年8月30日 初誓願

1964年8月30日 終生誓願

聖ウルスラ学院小学校・中高等学校教員

「第二バチカン公会議を、今日に生かす」(IV) 世界と教会における信徒の召命と使命 佐々木 博

(1) 信徒の尊厳と使徒職

まず、『教会憲章』の第4章で、初めて教会における信徒の実像が明確に説明された。「信徒とは、洗礼によってキリストと結ばれ、神の民に加えられ、自分たちの固有の様式によってキリストの祭司職・預言職・王職にあずかる者となり、教会と世界の中で自分の本分に応じてキリストを信じる民全体の使命を果たすキリスト者である。」

キリストの祭司職にあずかるのは、特に典礼において具体化される。したがって、ミサは、司式者の司祭とともに信徒もささげることができる。だから、『典礼憲



信仰年「信徒としての問いかけ」⑤

貴森本町教会 佐井 綾夫

「信仰の原点回帰 委ねて生きる」

信仰年の目的は、すべての信徒が信仰の原点に立ち戻り、自らの信仰生活を見直すという趣旨です。つまり信仰の原点回帰です。

信仰年における信仰の原点回帰の具体的事項は、第二バチカン公会議の精神（それぞれの憲章・教令・宣言）を思い起こし、自らの内面（精神性や霊性）、また家庭や教会、職場（学校）や地域社会（社会問題）、国家（政治）や国際社会と自分との関わり方を、そ

章』で、次のように強調されている。「聖なる行為に、意識的に、敬虔に、また行動的に参加し、神のこころによって教えられ、主のからだの食卓において養われ、神に感謝をささげ、司祭に手とおしてだけでなく、信者も司祭とともに清い供え物を奉獻して、自分自身を奉獻することを学ぶ。」（48項）。

また、キリストの預言職にも、あずかっていることが説明されている。「キリストは信徒を証人に定め、信仰の感覚とこころの恵みを授けて、福音の力が家庭と社会の日常生活の中に輝きわたるようになされた。」（35項）。

したがって、信徒は、特に典礼において聖書をより豊かに体験することが大切である。それぞれの信仰生活の中で具現化することにあるのだと思います。特に、現代社会の只中に生きる私たちにとっては、現代世界憲章の内容は無関心ではいられないはずで

さらに、信徒はキリストの王職にあずかっているもので、世界のただ中で神の国の完成のために特に愛の実践によって働く責任を担っている。

(2) 教会は、本来的に宣教師

『宣教師活動教令』によって、教会は本来的に宣教師であることを確認した。従って信徒も宣教共同体の一員として、宣教活動に参加する使命と責任がある。特に、家庭と社会のただ中で、福音をあかしし、伝えていく使命は信徒固有のものである。だから、次のように強調されている。

「信者のこの集団は、それぞれの民族に固有な文化の富を身に付けて、国民の中に深く根をおろさなければならぬ。家庭は、福音の精神に満たされて栄え、また適切な学校によって援助されるべきである。」（15項）。

れぞれの信仰生活の中で具現化することにあるのだと思います。特に、現代社会の只中に生きる私たちにとっては、現代世界憲章の内容は無関心ではいられないはずで

とりわけ福島の問題や医療の発達による生命倫理上の問題は、私たち現代人に科学技術の向上や経済発展と人間の真の幸福（福音）とは何かの判断を、一寸の猶予なく迫っているように思います。

取りも直さず信仰とは、神の御摂理と神の御計画の中で、私たちの主イエス・キリストの教えに学び、その生き方に倣うことであると思いま

(完)



「福島を忘れないでください。」

6月中旬、福島県原町の原町ベースを基点として、2泊3日の予定で、南相馬市周辺の被災地を訪問した。原発の被害のため、帰宅困難地区、居住制限地区等に細かく分けられ、人々は線量計を常時持参している。現地に足を踏み入れなければ分からないことがあまりにも多すぎることを痛感した。

遅々として進まない除染作業。2年前の卒業式の準備のままになっている荒れ果てた海岸沿いの小学校。原発事故がなければ学校も再建され今頃子どもたちの元気な声が聞こえていたことだろう。「地域再生はわたしたちの手で」とたくましく活動している原町の女性の声が忘れられない。

「どうぞ、わたしたちの存在を忘れないでください。電気をを使う時、思い起こしてください。」

この電気は30キロ圏の人びとの犠牲の上に成り立っているかもしれないということを。」どうぞあなたのまわりの人に「かわいそうな南相馬」ではなく「自分の身に起こりうる理不尽な出来事」として伝えてください。「政治批判に費やす時間を真の復興プロジェクトを構築する叡智の結集の時間に代えてください」

地球を大事にする会 Sr.小川敦子

II 私の信仰の原点 II

佐々木 淳(原町教会)

幼稚園で唱えたお祈りかもしれない。「すべてを天から見つめている神さま」という素朴な信仰は、幼年時の心を支え、まさに原点となつて今の信仰があるのだと思う。カトリック信仰年の今夏、第二の故郷である中国を、3年ぶりに妻子と訪ね、得た感慨は、自身の信仰、自身の生きる日本を今一度見直すためのまたとない恵みとなった。

行って体感した者にしかわからぬ中国という広大な「異次元」を通し、見えてきたのは、3・11という災厄の痛手から復興に邁進する中で、豊穡ではあるが狭く閉塞した日本が、失った社会の「きずな」を探し求め再生へと模索する姿だった。そして豊か過ぎるが故

の貧しさや狭さ、不自由さにも

多くの問題を抱えつつも発展中の中国は、一部富裕層を除けば、いまだ大多数の貧しい民衆が底辺を支え、実質彼らが主役の、生の躍動に満ちた国だった。そして、その民衆が心の底流で共有する貧しい民としての「きずな」が社会の連帯を助けていると感じた。生活水準が低くても皆で一緒に箸を突く喜びや、汗にまみれた者同士の間人としての共感、痛みや苦勞への共感が彼らの生の源流にあると感じた。貧しいが故に中国の民衆はたぶん今の日本人よりずっと深く生の喜びを味わっているはずであり、そんな彼らに羨望を抱いた。

帰国して以前にも増し、狭まっていた視界がひらけ、偏見から開放され、常に自身が刷新されるような信仰を私は求めるようになった。

仙台教区「新しい創造」…第3期の取り組み

被災者支援保養プログラム 「ふいつの架け橋 in 山口」

東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所の事故の被災者支援保養プログラムが昨年「ふいつの架け橋」プロジェクトとして大阪教区神戸地区によってはじめられました。福島のことと母親



加の模様をご紹介します。「山口の自然や人々との触れ合い」のテーマで、12名の一行は4泊5日を美しい自然の中で山口教会の信徒の方々との交流を深めました。角島海岸では3年ぶりの海水浴を楽しみ、写真、サファリランドや船方農場では動物に触れ、秋芳洞見

ボランティアの50名の方々の支えで運営されました。子どもたちの感謝の言葉には「僕たちは福島ではできなかった分、思いっきり遊びました」と。福島にもどつての最初の日曜日、上級生の3人は松木町教会で堂々と侍者を務め、ミサ後は夏休みの「蟻の巣の自由研究」に余念がありませんでした。

(熱海紀子 cnd)

カリタス若林 荒井東通仮設で夏祭り

一本杉教会、西仙台教会、畳屋丁教会合同で「カリタス若林」の名称で支援活動を続けている仙台市若林の荒井東通仮設で自治会と共同企画の夏祭りを8月11日(日)午後4時から実施した。これに先立ち、8月5日(月)、仙台七夕に合わせて七夕飾りを完成させた写真①。この七夕は、仮設で毎

「夏祭り」は、仮設集会所前の広場にテントを張り、焼きそば、かき氷、各種の飲み物、ビールなどを準備した。梅雨明けした途端の猛暑、西日の太陽が容赦なく照りつける中、仙台ダルクの方々が、汗びっしょりになりながらの焼きそばがいい匂いを放つ中で開会。仮設で「大正琴」を習っているグループの演奏が響いた。盆踊りや写真②、和太鼓の演奏、雀踊りなどにつられて徐々に人も増え、かき氷や、焼きそばに行列ができた。

です。私は9月1日から9月29日まで仙台教区の宮古教会に派遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて沖縄

遣されます。これは初めて



WYDリオデジャネイロ大会 「だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしろ」

(マタイ 28:19)

7月23日からブラジルで行われていた世界青年の日(ワールドユースデー/WYD)リオデジャネイロ大会は、28日の教皇フランシスコが司式する派遣のミサと、お告げの祈りをもって閉会した。日本からは司教、司祭を含め63名の若者が参加した。仙台教区からは、井口真樹さん(大河原教会)とホセ神父、エテメ神父の3名が参加した。

2013 WYDリオデジャネイロ大会に参加して 井口 真樹

ワールドユースデーは、世界中の若者が大会を通してひとつになり、ひとつの信仰を持って彼らが世界中から集い、キリストの受難と復活の神秘を祝う巡礼の旅であるのです。

「だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしろ」が大会のテーマ。コパカバーナビーチで行われた派遣のミサには世界中から集まった青年など約300万人。日本からの参加者は、19日、成田空港と関西空港から出発。目的地であるサンパウロを目指した。

乗り継ぎの待ち時間を含めて約31時間かけサンパウロへ到着。聖ゴンサロ教会の日系ブラジル人の青年たちの盛大な歓迎を受け、宿と



キリスト像を囲むように主の祈りが一編ずつ記され、祈りの場にもなっていた。昼食後、コパカバーナビーチに向かい、海岸の外の歩道のスペースを

なる聖母女子修道会へと向かった。

21日、WYD参加のための準備や、日系ブラジル人との交流会。日本で練習してきたダンスを披露した。サンパウロ観光日、日系ブラジル資料

館見学などで過ごした。

22日、サンパウロからバスでアパレシダーを経由しリオデジャネイロへと向かった。アパレシダーの大聖堂は世界で2番目に大きいとされる大聖堂だった。お昼から各国司祭と司教によるミサに出席した。ミサ後に大聖堂内に祭られているアパレシダーの聖母像を見に行った。この聖母像は、多くの奇跡と信心によって1930年、ブラジルの保護者となった。

夕方、リオデジャネイロへと向かい、日本巡礼団の拠点となる教会に到着したのは、23時過ぎだった。

23日は朝食を教会で食べ、午前中はWYDの大会参加登録のため、リオデジャネイロのカニバルの会場へ。夕方、ようやく登録を終え巡礼者パック

を受け取り、コパカバーナビーチで行われる開会ミサへと向かった。ミサの中ではアフリカ、ヨーロッパ、南米、オセアニア、アジアの代表の青年たちが、それぞれの国の言葉でロザリオの祈りをささげた。

24日から各教区によるアニメーションが始まった。アニメーションとは、各曜日を聖週間になぞらえたテーマごとに分け、担当する教区ごとにそのテーマをもとに発表するというものである。その日は、さいたま・横浜・札幌教区が担当し、「希望への渴望、神への渴望」というテーマのもと、発表を行った。発表後は、郡山司教によるカテケジスと分かち合い、ミサが行われた。その後昼食を取り、アジア・ユース・ギャザリングに参加した。アジア・ユース・ギャザリングとは、アジア各国の青年たちのみで行われる交流会であった。事前に提示されていたテーマをもとに各国の青年たちとデイスカッションをし、交流を持った。

それぞれが持つ教会への関わりや、「宣教」というもののイメージなどを話し合い、分かち合った。

25日は大阪・福岡教区によるアニメーションだった。「キリストの弟子になる」というテーマで、松浦司教のカテケジスを聞き、分かち合いの場を持ち、ミサに参加した。午後は教皇歓迎式典に出席するためにコパカバーナビーチへと向かった。

式典では、各地域代表の青年たちが教皇に挨拶をしていた。アジア代表には、日本巡礼団から青年が選ばれ、直接教皇に感謝の挨拶をし、ロザリオをいただいた。

26日は、東京・仙台教区がアニメーションの担当だった。「宣教者になる、『出発』というテーマで、それぞれの思う『宣教』のイメージを発表し、分かち合いに持ち越し疑問として投げかけた。浜口司教のカテケジスを聞き、ミサが行われた。午後は、ゆるしの秘跡を受け、コパカバーナビーチでの十字架の道行に参加した。

27日は野宿の準備をして教会に集合した。WYDの日程のほぼ半分が雨という日程であったため、野宿をする場所であったグアラチバが水没し、使用不可となった。場所が変更され、コパカバーナビーチで前晩の祈りが行われることになった。午前中は、コルコバードの丘を観光。キリスト像の中はお御堂になつており、アパレシダーの聖母像が安置されていた。また、

確保。

前晩の祈りの中で教皇は、グアラチバの「信仰の畑」という場所をもとに、若者たちを「真の信仰の畑」とイメージから出発し、3つの畑のイメージを持ったと話された。日々の生活の中で私たちの畑は道端や、茨の生えたような状態であり、その間に種がまかれれば育ちにくい。WYDという場を持つて、良い畑となるよう依り頼み、真のキリスト者となる事が求められている。

28日は午前中に教皇フランシスコによるミサがあるため、教皇がビーチに到着するまではビーチ内に入る事ができず、専用車に乗って手を振る教皇の後ろ姿が見える程度だった。

教皇ミサの中の説教で教皇フランシスコは、若者に向けて三つの言葉を投げかけた。それは「行きなさい」、「恐れるな」、「仕えなさい」である。今回のWYDの経験で信仰体験の分かち合い、信仰をあかしし、福音を述べ伝えて、神

の愛を宣教しなさいと語られた。そして、私たちに先立ってキリストがすでに導き、そして一緒に派遣されている。だから、恐れるな、自分の生活をイエスの生活と同じように奉仕する生活にしなさい。イエスを告げ知らせるために全ての人の奴隷となったパウロのように、人々に仕えなさいと語られた。

また、教皇ミサの中の共同祈願で日本巡礼団から代表者が出した。集まった若者たちのための祈りを日本語で祈った。

29日の最終日は教会内での活動が中心となった。午前中は、大会のふり返りと個々のふり返りの時間を持ち、ゆるしの秘跡を受けた。昼食後は司教様方から青年たちへのメッセージを受けた。最後のミサに参加した。夕方には空港に向かい、日本に着したのは、31日の午後である。巡礼だった。

今回のWYDを終えて、私自身が持つ信仰心について深く考

子どもたちの夏

仙塩地区中高生会

8月4日～5日、会津若松教会にてサマーキャンプを行った。ここ数年は仙仙近郊でのキャンプが続いていたため、ほぼ5年ぶりの他県でのキャンプ。

元寺小路教会でミサに参加した後、皆で会津若松に出発、到着は昼を過ぎていた。昼食後、最初のプログラムはオリエンテーション。

中高生会のオリエンテーションは街中のあらゆるところにチェックポイントが隠されていて、指令書をヒントに街中を探し回らなければならない。それに加えて、今回は『八重の桜』で注



目されている鶴ヶ城(現在、城内は博物館になっています)内にも多くのチェックポイントを作ったので、中高生はオリエンテーションを通じて市内観光を楽しんでいた。オリエンテーション後は皆でバーベキュー。その後駅前のスパー銭湯でゆつくり汗を流した。一日の終わりには聖堂に移動し、ろうそくに火をともし、一人ずつ神様の前で一日を振り返る。

2日目の午前中は静かにDVDを鑑賞。昼食はこれも中高生会名物の流しそうめん。写真は、この流しそうめんはそうめんだけでなく、食材も流れてくるというオリジナルバージョン。毎年大好評だ！昼食後は皆で輪となって二日間の思い出を分かち合った。

このキャンプには後

中高生会担当司祭のエメメ神父、会津若松教会主任司祭の舟山神父、毎年キャンプに同行してくださる佐藤神学生をはじめ、いつも中高生会を支援くださる方々に心より感謝。今後とも、未来の教会を担う子どもたちの成長を温かく見守ってほしい。(赤井修蔵)

仙塩地区教会学校



合同サマーキャンプ

8月8日～10日、加美町にある中新田交流センターで「自然と出会い、仲間と出会い、神さまと出会う」をテーマに子どもたち35名が

参加。

初日の夜は、ゆるしのプログラムで森田神父のお話により自分をみつめて、ゆるしの秘跡を受けた。初聖体をしていない子や未信者の子もシスターに罪の告白をし、全員がろうそくの灯りの中で、静かに祈りの時を過ごした。

2日目は、荒賀リリーダーの解説を頼りに映画「ブラザーサン・シスタームーン」を鑑賞し、現教皇様がお名前を選んで聖人フランシスコがどんな生き方をしたのか、そこから学ぶことは何かを子どもなりに感じる事ができたと思う。

日中は地元農家4人の方のご協力で、じゃがいも掘りや田んぼ付近の水辺の生き物探しを通して自然は命なのだ教えていただき、最終日のミサではその命はすべて神さ

た。私自身が教会でできること、教会を構成する一員としてできること、将来教会を支えるものとしてできる事を考えさせられた。WYDという非日常の経験は、帰国後には日常の忙しい生活の中に埋没しがちである。ただの旅だったで終わらせることなく、教会に所属するキリスト者として、良い経験となった。

次回2016年にポーランドのクラクフで行われる予定。

まからいただいたものとみんな確認することができた。

大きな輪になってミサを進める中で、「みんなが本心にひとつになっているのか」と森田神父は何度も呼びかけた。部屋ごとに話し合っ

て決めた共同祈願や一部の言葉を手話にするなどで、子どもたちのミサへの参加の意識が高まった。

何となくミサにいては、みんなミサをしたという気持ちになれたことは一番のお恵みだったと思う。

テーマソングの「らんよ、空の鳥」を歌うたびに昨年キャンプを訪れ、子どもたちと過ごされた藤井神父様をみんなで思い出した。

キャンプでの出会いがいかに素敵なことか：ぜひ来年も、新しい出会いをいただきたい。(佐々木いづみ)

気仙の市民と共に 山浦氏の受賞を祝う

7月26日(金) 大船渡市内のホテルで山浦玄嗣氏の「バチカン有功十字勲章」の受章を祝う会が開催され、発起人代表の戸田公明大船渡市長をはじめ140名くらいの人がかけつけた。



【お詫びと訂正】教区報

212号5頁のタイトルで「バチカン有功十字勲章」とすべきところ、有効と表記しました。お詫びして訂正いたします。

小野寺・ホセ神父の 歓送迎会パーティー フリーピンの方々と共

6月30日(日)、大河原教会で県南4教会がフリーピンから来たご婦人たちを迎えた合同ミサと小野寺神父・ホセ神父の歓送迎会が開催された。八木山教会、元寺小路教会、カリタスの関係者も加わり約90名、大河原教会の聖堂に入りきれないほどの人が集まり聖歌が聖堂いっぱい響き渡った。

祭壇上は、小野寺・ホセ両神父と共に5名の若い侍者でいっぱい。ミサの中の「主の祈り」は隣の人と手をつないで日本語とタガログ語で唱えた。その時「主にあって私た

せていきたい」と述べ、この受章が気仙市民に対してのものだという話をされた。

祝賀会の中ではフリーピンから気仙に嫁いできた信者さんたちのバンブーダンスも披露され、山浦氏も飛び入りで参加。大盛り上がりの中で、気仙の中にしっかりと根付いているカトリック教会の様子を市民のみなさんに見せることができました。

ちは一つ」と強く感じた。幼稚園ホールでのパーティー写真には、仙台タルクのメンバーも加わり、100名ほどに。フリーピンの家庭料理が持ち寄られ、にぎやかなパーティーとなった。

彼女たち14名は日本語を勉強しながらヘルパー2級の資格を取得



【訂正】212号8頁、北11条教会の写真が北1条教会のものになっていました。正しくは下の写真です。



野田和雄(八木山)



の4年間の宣教の歩みが県南4教会に確かに根づいている事に深く感銘を受けた。

これから亘理教会はじめ県南4教会は、フリーピンからの協力者と共に新しい歩みがはじまる。

【情報提供】庄司佳士大河原

お知らせ

◆講演会のお知らせ◆

「信仰年にあたり、高山右近の霊性に学ぶ」
～現代教会に、どのように活かせるか～

講師：溝部脩 司教(高松教区名誉司教)

日時：11月5日(火) 11:00～15:00
(11:00 講演 13:30 ミサ)

会場：元寺小路教会

会費：1,000円(昼食付)

共催：仙塩地区連合婦人会(あけの星会)

日本カトリック女性団体連盟

申込み締切 10月20日(日)

*参加は男女不問

各教会のあけの星会役員まで申込み

問合せ：阿部正子 TEL 022-251-2791

新刊案内

教皇フランシスコ

12億の信徒を率いる神父の素顔

著者 マリオ・エスコバル／発行 新教出版社／定価 1400円＋税

教皇フランシスコは選出されて以来、親しみやすい語り口と、その実行力によって、世界中の多くの人々を魅了しています。「カトリック新聞」にも、毎週、教皇フランシスコのお話が載っていない号はないほどです。それほど、人々のこの教皇に寄せる期待が大きいといえるでしょう。

本書は3部に分かれており、第一部は「人生を変えた『春の日』」。この部分だけが、従来の伝記に相当するものです。

教皇の本名は、ホルヘ・マリオ・ベルゴリオです。彼は1936年、イタリア移民の子どもとして生まれ、アルゼンチンで育ちました。第一部のタイトルとなっている「春の日」とは、17歳のベルゴリオ少年がゆるしの秘跡を受けたとき、司祭召命を感じた不思議な体験を指しています。しかし、実際にイエズス会に入会するのは、21歳の時でした。

第二部は、「イエズス会出身の枢機卿」。最初は、イグナチオによって創立されたイエズス会の歴史が紹介されています。司祭になったベルゴリオのイエズス会士としての活躍、司教、枢機卿にあげられ、2回のコンクラーベに参加し、3度目に教皇として選ばれるまでが描かれています。

第三部は、「新教皇フランシスコの5つの挑戦」と題して、現代カトリック教会が抱えている問題にどのように応え、教会を変革していくかが期待に満ちて書かれています。

質素な生活態度を変えず、常に、平和と喜び、一致を説く教皇の姿は魅力的です。読者はこの教皇様のために、祈らなければならぬという思いに駆られることでしょう。

カトリック仙台司教区 2012 年度決算報告 (2012.4.1.～2013.3.31.)

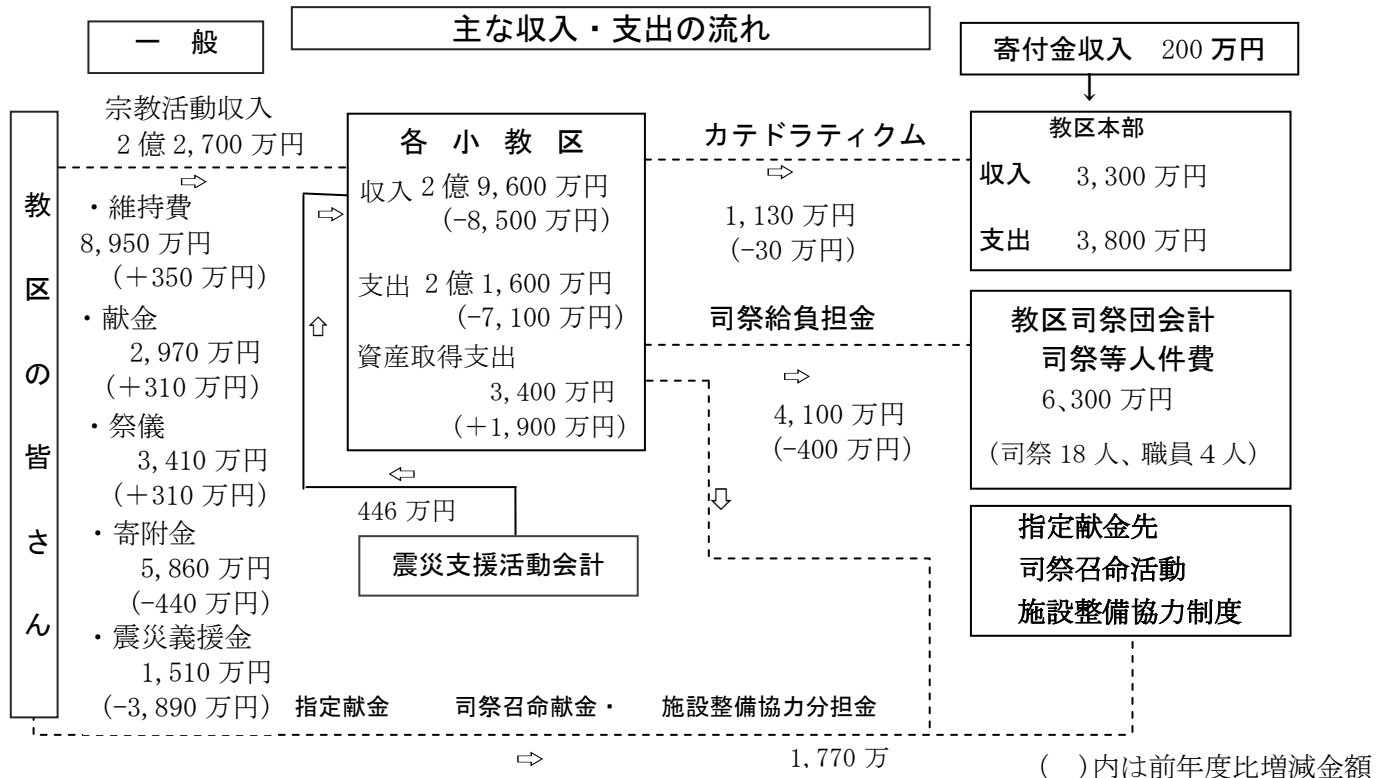
◇仙台教区の財政的交わり

仙台教区の財政を支えているのは信徒の皆さんです。毎月納めてくださる教会維持費、ミサ献金、結婚式・葬儀・意向ミサ謝礼等の祭儀収入、聖堂改築・修繕等のための献金・寄付金が、小教区の収入のほとんどを占めております。小教区は、その収入の中から教区本部の運営資金としての「カテドラティクム」、教区司祭の生活を支える「司祭給負担金」や、「施設整備協力金」を負担しており、財政面においても教区全体がひとつの交わりをもっています。

一昨年スタートした仙台司教区 75 周年を記念した「教区年・絆のロソクリー」も昨年 7 月 16 日岩手県大会をもって大成功裏に終了しております。会計面では、2012 年 4 月から原町教会、2012 年 8 月から郡山教会と二本松教会の会計が仙台司教区に移管されました。下記の金額に反映されています。

2011 年 3 月の大震災支援への義援金は続いて送られていまして、昨年に引続き信徒への見舞金・生活支援金や教会、諸施設の修繕費等に支出されています。

またカリタス・ジャパンの資金援助の基にサポートセンターを通じての、被災者救援活動を引続き行っています。



カトリック仙台教区 2012 年度決算概要

○ 小教区の収支

(2012. 4. 1. ～2013. 3. 31.)

収入の部	2012 年度	2011 年度	支出の部	2012 年度	2011 年度
1. 宗教活動収入	227,092	261,127	1. 宗教活動支出	51,903	67,602
教会維持費	(89,484)	(86,018)	震災支援支出	(11,472)	(39,482)
献金収入	(29,704)	(26,639)	2. 指定献金支出	17,762	23,322
祭儀収入	(34,095)	(30,992)	3. 事務運営費	83,863	134,668
寄付金収入	(58,638)	(63,464)	光熱水費	(20,923)	(19,019)
震災義援金収入	(15,171)	(54,014)	保守修繕費	(32,381)	(87,835)
2. 指定献金収入	17,762	23,322	4. 人件費	396	3,344
3. 補助金収入	23,484	2,971	司祭給与	(120)	(900)
4. 他部門繰入収入	16,359	66,380	5. 他部門繰入支出	60,147	56,799
5. その他の収入	11,169	27,966	カテドラティクム支出	(11,331)	(11,668)
施設設備利用料	(4,725)	(4,443)	司祭給分担金	(41,412)	(45,130)
6. 財務収入	25,257	8,872	6. その他支出	2,404	856
			7. 財務支出	91,066	79,411
前年度繰越支払資金	167,784	143,148	次年度繰越支払資金	181,366	167,784
合 計	488,907	533,786	合 計	488,907	533,786

*上記は青森県、岩手県、宮城県、福島県の小教区教会(ドミニコ会所属4教会を除く)の収支報告書を合計したものです。(次頁につづく)

＊２０１１年度と比較して増減額や特徴的な点をコメントします。

＊２０１２年４月から原町教会、２０１２年８月から郡山教会、二本松教会の会計が「カトリック聖ドミニコ修道会」より移管されました。

「収入の部」＝「宗教活動収入」では約 3400 万円減少しました。

①維持費は 346 万円増加していますが、移管 3 教会分が 477 万円ありますので、実質は 131 万円減少となります。

②献金収入は 310 万円増加。実質でも 100 万円の増加となります。

③祭儀収入は 300 万円増加。

④寄付金は 500 万円減少、実質は 900 万円減少となります。

⑤震災義援金は 3900 万円減少しております。

「補助金収入」には移管 3 教会の前年決算時の次度支払資金分をこの項目で受入しております。

「他部門繰入収入」は 5000 万円減少していますが、昨年は小教区聖堂関係の震災復旧費等で 6400 万円計上したものが減少しました。

「支出の部」＝「宗教活動支出」は 1600 万円程減少しました。震災支援支出が 2700 万円減少し、寄付金支出が 800 万円増加しています。

「事務運営費」は 5100 万円減少していますが、保守修繕費で 5500 万円減少したものです。

昨年は小教区聖堂等の震災復旧工事費 6400 万円程ありました。

「財務支出」は固定資産取得 3400 万円、特定預金への繰入 5600 万円です。

教区本部に寄せられた「震災義援金」より今年度支出された小教区建物等修理費支出は

東仙台 1321 万円、古川 1869 万円、一関 633 万円、会津若松 287 万円、置屋丁 158 万円、
となっております。

○教区本部会計の収支

(単位千円)

収入の部	2012 年度	2011 年度	支出の部	2012 年度	2011 年度
カトリック収入	12,855	14,600	宗教活動支出	3,864	8,196
寄付金収入	1,360	1,220	宣教司牧費	(3,784	(8,145
祭儀収入	2,091	7,246	事務運営費	9,525	10,475
受取利息	3,354	3,540	人件費	13,023	12,941
その他の収入	3,903	3,934	司祭給与	(5,965	(5,822
他部門繰入金収入	3,514	7,140	他部門繰入金支出	11,400	3,700
経常収入合計	27,077	37,680	経常支出合計	37,812	35,312

次年度繰越支払資金 49,270 千円

「収入の部」＝カトリック収入にはドミニコ会 4 教会および修道院分も含まれています。

(2011 年度の寄付金は、一般信徒大口寄付 1 件 500 万円が主たる分です。)

「支出の部」＝ 1. 「宗教活動支出」は宣教司牧費で 75 周年関連、震災関係、WYD 参加費用等の支出が減少し平年並みの支出に落ち着いています。

2. 「事務運営費支出」は 100 万円減少。中央協議会への負担金 106 万円も 2013 年度まで震災で免除されています。

3. 「他部門繰入金支出」は特殊な分が 770 万円含まれています。

ご覧頂いたように「支出」の固定部分は宗教活動支出 400 万円強、事務運営費 1050 万円、人件費 1300 万円、その他 300 万円です。

しかし、現状では「収入」の固定部分は 2700 万円程度になっていまして、恒常的に 500 万円程度の不足を生じてきました。

各小教区の宗教活動収入増を図って頂き、結果としてカトリックの増加につながることを期待している所です。